日本社会心理学会第59回大会

2018年8月28日

ケータイ利用のライフスタイル・アプローチⅠ
―シニアのライフスタイルとＩＣＴ利活用の時系列考察―

○水野　一成　（株式会社ＮＴＴドコモ　モバイル社会研究所）
飽戸　弘　（東京大学名誉教授）

1. 調査･研究概要

シニア世代の生活をより豊かにするために
“必要とされること”、“ＩＣＴが貢献し得ること” を検討する。

基礎調査（1回目）2015.10 n=506

シニアのタイプ分類を実施

シニアにも様々なタイプが存在

A　B　C　D

重要設問抜粋

注目すべき事項

基礎調査（２回目）2017.1 （n=530)
基礎調査（３回目）2018.1（n=510)

シニア全体：経年比較 n=530

ライフスタイル　日々の活動等

ＩＣＴ利活用　サービス利用等

・
・

ＳＴＥＰ２　2017.3

スマホ所有限定 n=2,938

スマホを所有したきっかけ　スマホの習得方法

＋

ＩＣＴ利活用　ライフスタイル　・・・

1-2 調査概要

研究目的

シニアのライフスタイルとＩＣＴ利活用はどのような関係があるのか。
また、どのように変化しているのか。

「日々の活動」結果を元にクラスタ分析を行い、それぞれの特性をみる

調査概要

	1回目	2回目	3回目
調査時期	2015.10	2017.1	2018.1
調査方法	訪問留置調査法		
調査対象	関東１都６県　60歳～79歳の男女		
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING　性別・年齢・都市規模で割付		
サンプル数	506	530	510

２．調査結果

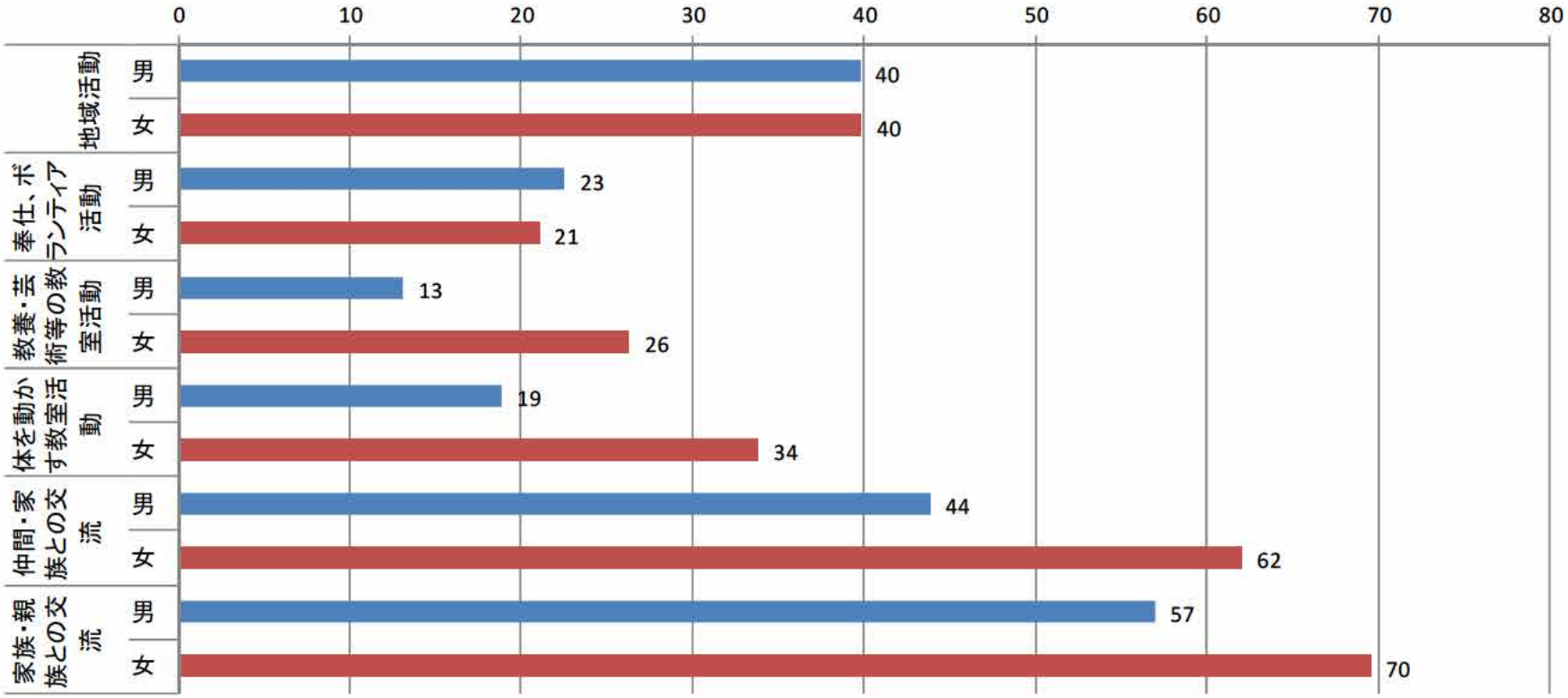
因子分析・クラスタ分析
－スマホの関与－

2-1 調査結果 日々の活動

日々の活動

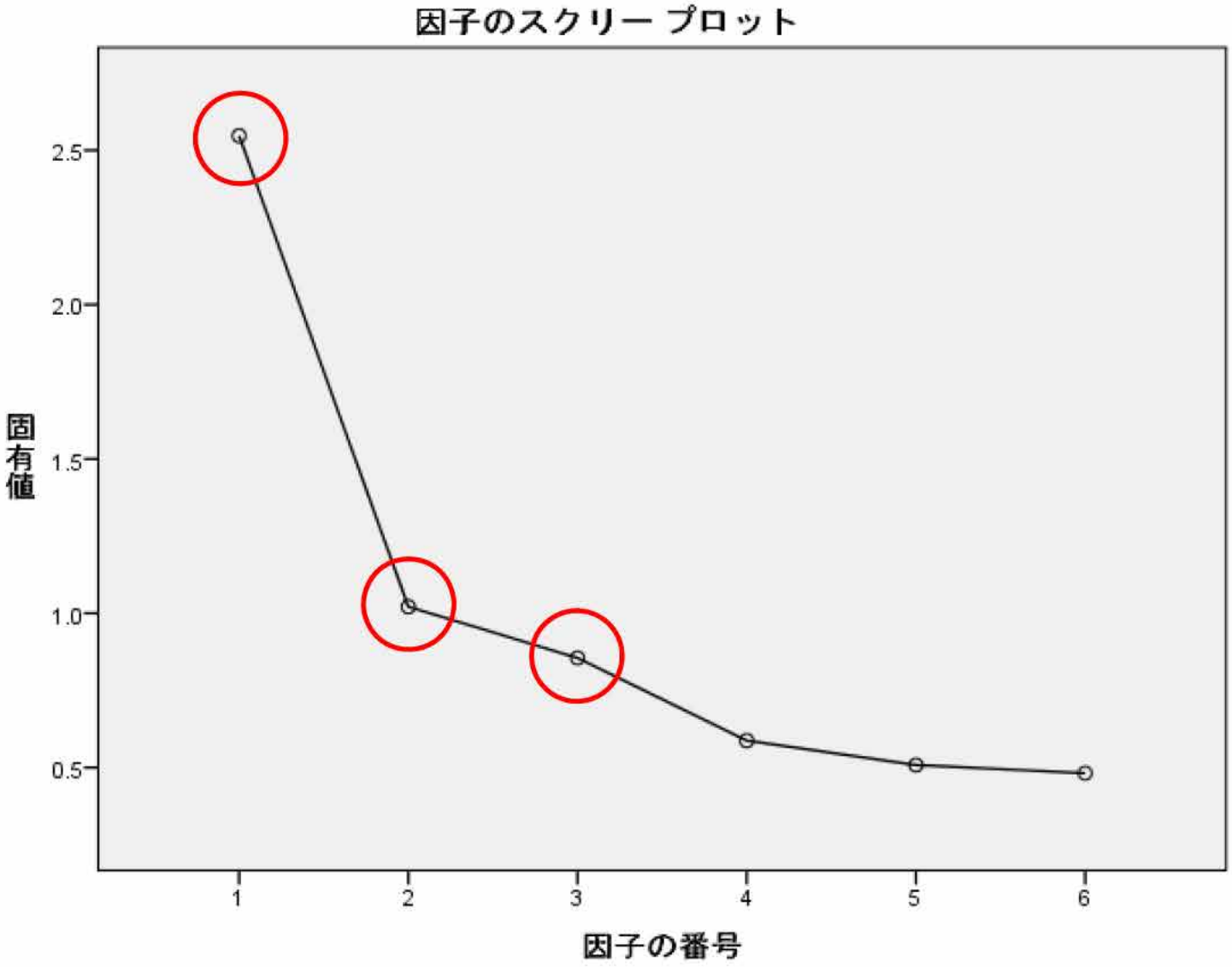
分類	社会活動		カルチャースクールでの活動		人との交流	
調査項目	地域活動（自治会・老人会・町内会）	39.8%	教養・芸術・手芸等の教室活動	20.0%	仲間・知人との交流	53.3%
	奉仕、ボランティア活動	21.8%	体を動かす教室活動	26.7%	家族・親族との交流	63.5%

日々の活動（性別）



因子分析

累積寄与率＝73.7%



2-3 調査結果 日々の活動 因子分析②

因子分析の結果、仮説通り「カルチャースクールへの参加」「社会活動への参加」「仲間・家族との交流」に分けることができた。

仮説：①体を動かす、学芸・芸術のカルチャースクール両方参加もしくは両方不参加
②地域活動、奉仕活動を両方参加もしくは両方不参加
③家族との交流、仲間交流、両方おこなっている、もしくはおこなっていない

設 問	第一因子	第二因子	第三因子
	教室活動	社会活動	仲間家族
体を動かすカルチャースクールへの参加	**.698**	.157	.206
学芸・学術、カルチャースクールへの参加	**.546**	.225	.214
地域活動への参加	.122	**.645**	.149
奉仕活動への参加	.228	**.633**	.120
家族との交流	.147	.104	**.636**
仲間との交流	**.342**	.229	**.605**

2-4 調査結果 日々の活動 クラスタ分析

クラスタ分析の結果、全ての因子得点が正に高い「積極派」から、
全ての因子得点が負に高い「消極派」まで５つに分けることができた。

クラスタ		積極派	教室でいきいき	仲間家族交流	地域のみ	消極派	平均
日々の活動	教室因子	**0.62**	**1.14**	*-0.39*	*-0.36*	*-0.44*	
	社会活動因子	**1.32**	*-0.32*	-0.23	**0.75**	*-0.46*	
	交流因子	**0.49**	**0.39**	**0.83**	*-0.80*	*-0.56*	
サンプル数		77	85	98	51	199	510
構成比		15%	17%	19%	10%	39%	

2-5 調査結果 日々の活動 クラスタ特性「ライフスタイル・属性」

「積極派」「教室でいきいき」「仲間家族交流」は女性比が高く、
「地域のみ」「消極派」は男性比が高い。

クラスタ		積極派	教室でいきいき	仲間家族交流	地域のみ	消極派	平均
男比		45	*29*	40	**63**	**57**	48
60代比		*43*	**62**	57	49	59	56
時間的ゆとり有		74	**84**	79	76	76	77
経済的ゆとり有		56	**61**	49	*31*	44	48
有職率		48	*38*	**54**	45	45	46
得点 イノベータ	高	**42**	**41**	36	*14*	*19*	29
得点 イノベータ	中	32	44	38	33	34	36
得点 イノベータ	低	26	*15*	27	**53**	**47**	35
同居家族無		12	8	13	20	14	13

2-6 調査結果 日々の活動 クラスタ特性「ＩＣＴ」

アクティブシニアほど、「スマホ所有」「パソコン所有」が高い。また比較的直近でスマホを所有した割合が高い。

		積極派	教室でいきいき	仲間家族交流	地域のみ	消極派	平均
ＩＣＴデバイス	スマホ保有	**56%**	**58%**	49%	45%	*34%*	45%
	ケータイ保有	*43%*	52%	52%	45%	53%	50%
	ＰＣ保有	**64%**	**66%**	47%	43%	40%	50%
	全て未保有	5%	2%	6%	14%	16%	10%
ＩＣＴ利用(※)	上級	**35%**	**35%**	31%	30%	*25%*	31%
	中級	56%	*41%*	58%	35%	53%	50%
	初級	*9%*	**24%**	10%	**35%**	22%	19%
スマホ所有時期	1年未満	**14%**	**20%**	4%	**35%**	7%	7%
	1-3年未満	**43%**	31%	33%	20%	38%	38%
	3-5年未満	19%	22%	23%	**30%**	23%	23%
	5年以上	24%	27%	**40%**	*15%*	32%	32%

※上級・・初級、中級利用＋動画やＳＮＳ利用　中級・・初級＋情報検索、災害情報など　初級・・電話中心

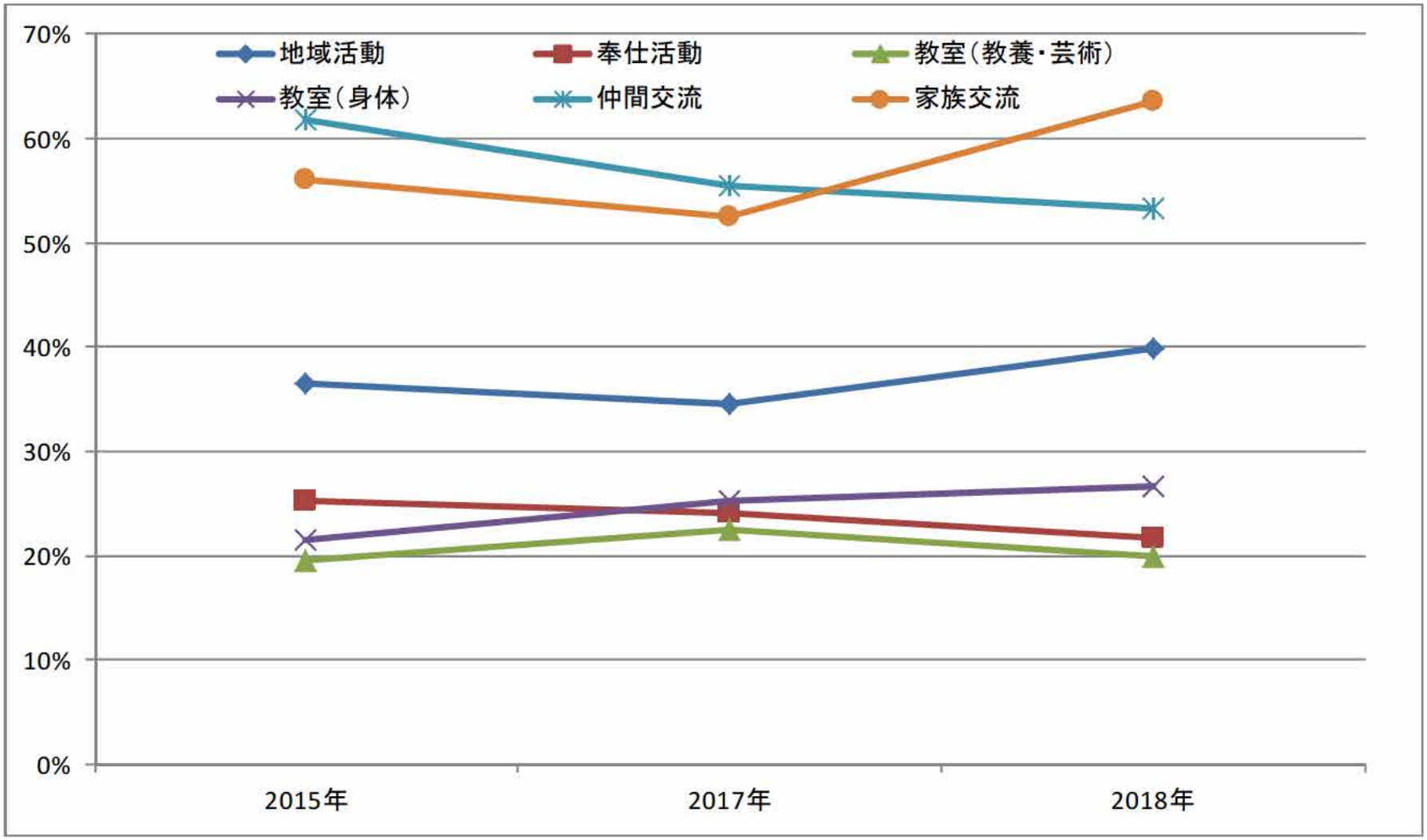
３．調査結果

経年変化
－日々の活動とスマホ所有－

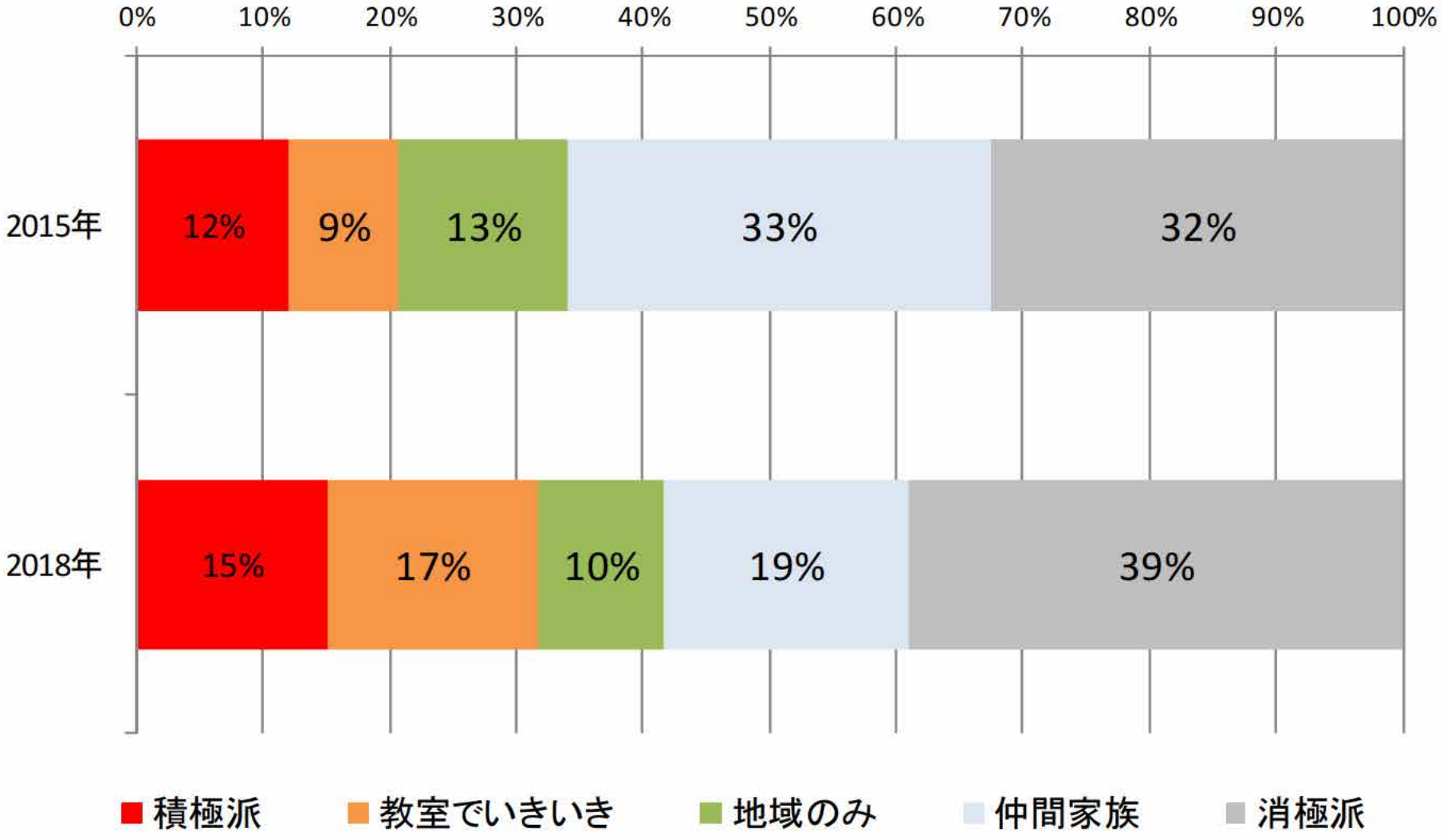
3-1 調査結果 経年変化 日々の活動単集計

単集計ベースでみると、この４年間の変化は大きく見られない

日々の活動 単集計

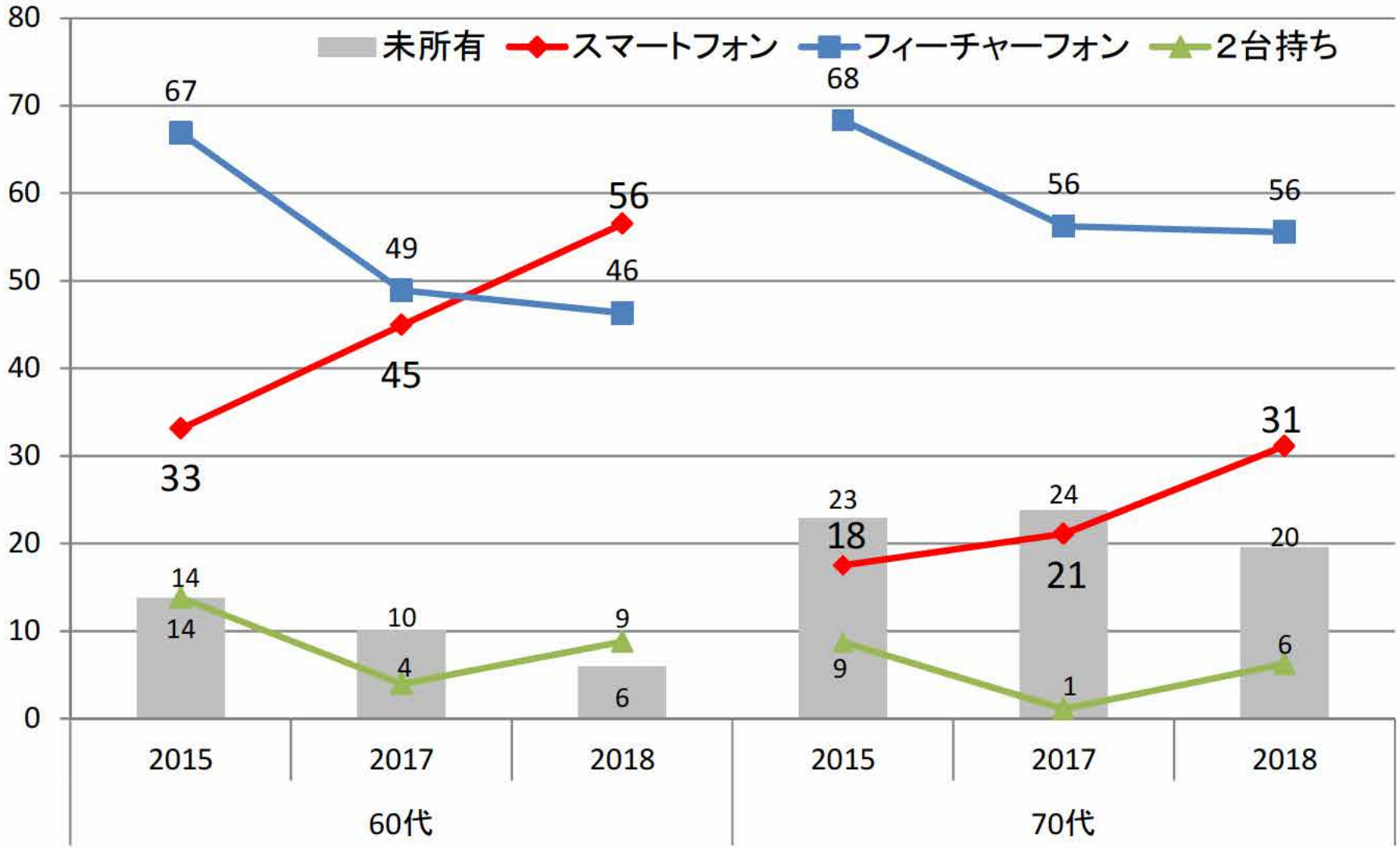


中間派（仲間家族中心）が減り、アクティブ派と消極派が増えた



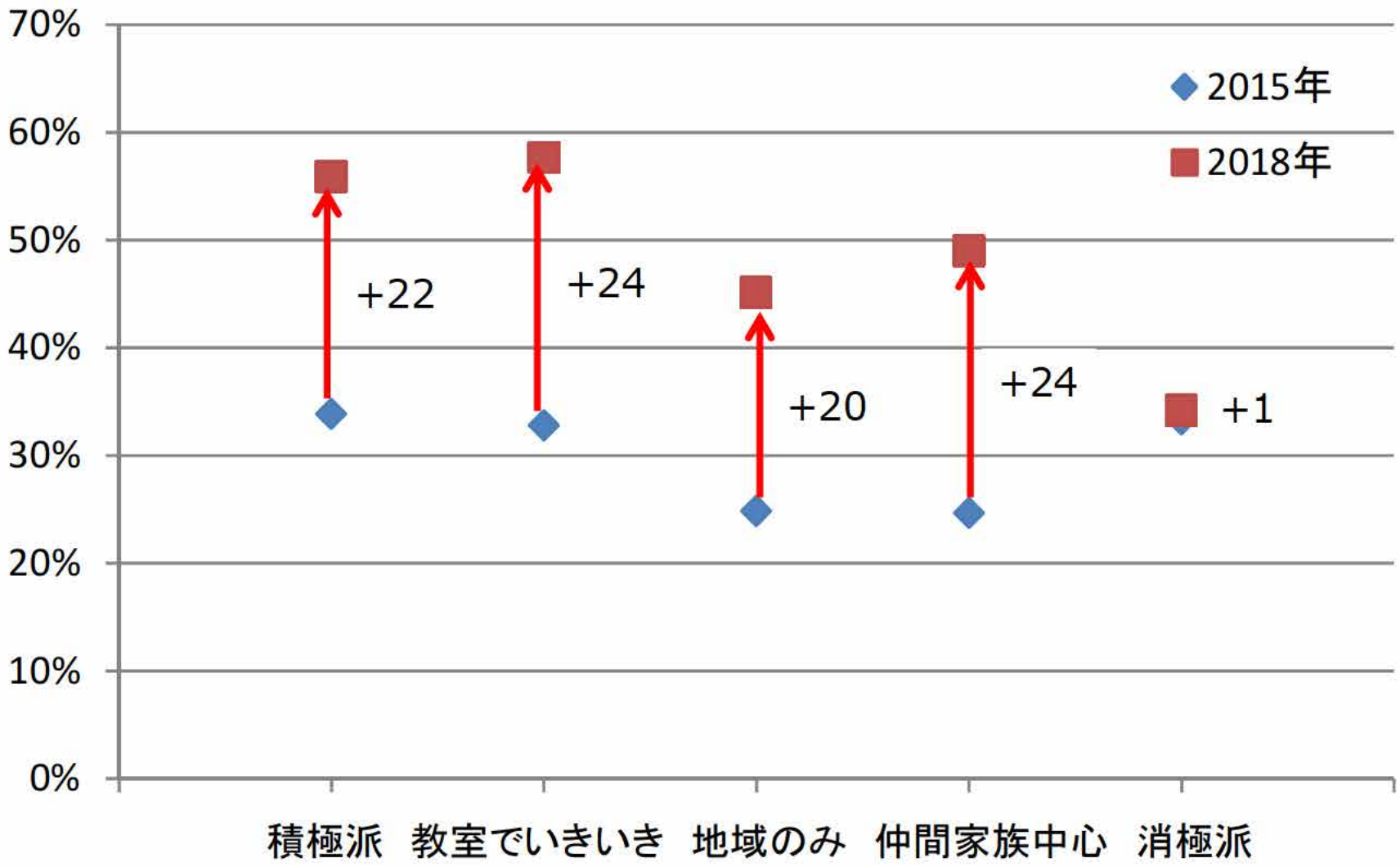
3-3.シニアのスマホ・フィーチャーフォン所有状況

2018年、60代でスマホ保有5割超、初めてフィーチャーフォンを抜く



日々の活動クラスタとスマホ保有率

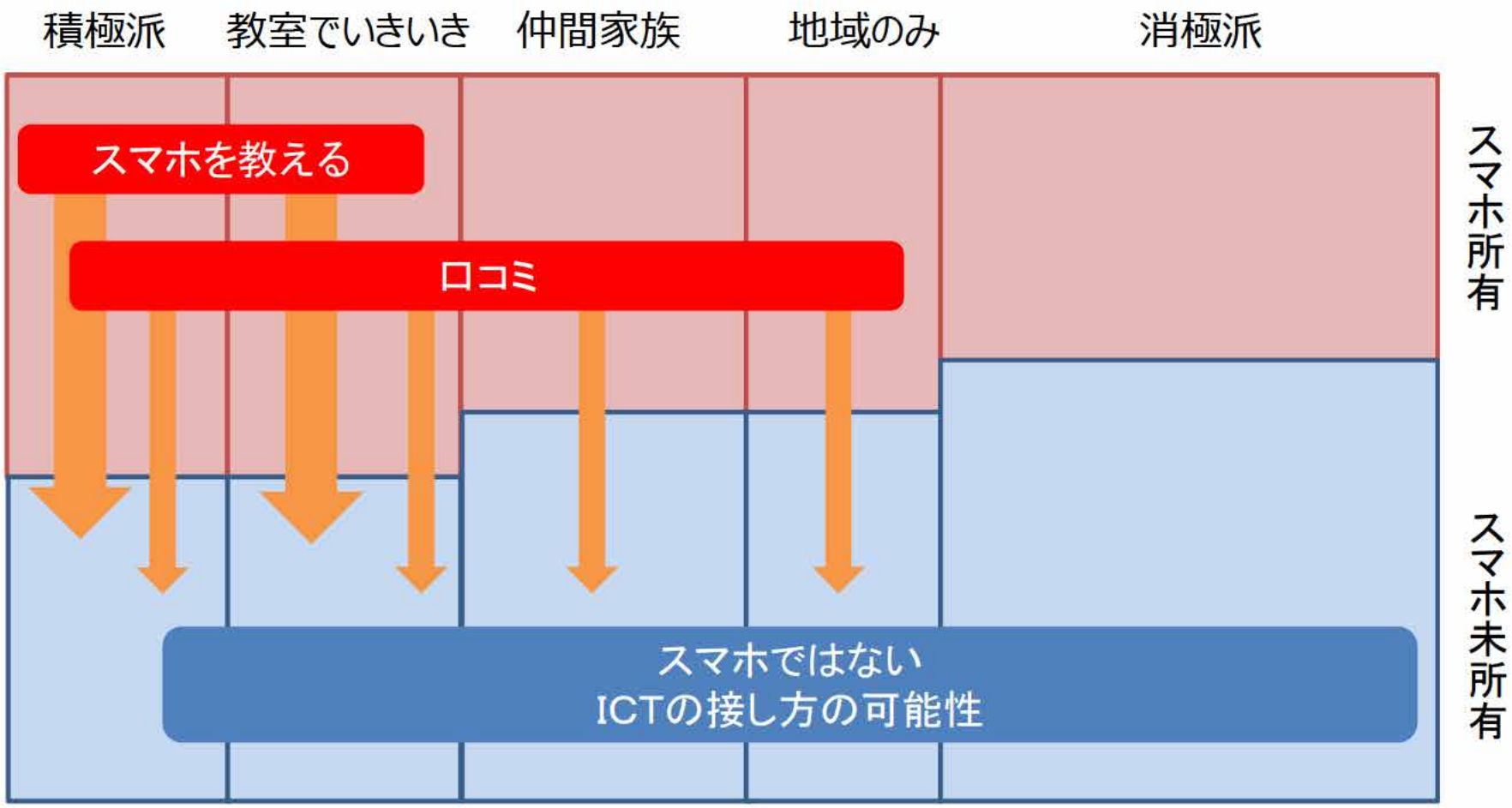
消極派のみ、ほぼ保有率は変わらず。他のクラスタは２割強上昇。



3-5 調査結果 まとめ

日々のクラスタ	特性	スマホ関連
積極派	70代中心 パソコン所有も高い	スマホが所有率上昇 ＩＣＴ利活用が活発 最近スマホ保有
教室いきいき	女性が多数・60代中心 時間的・経済的ゆとりが高い パソコン所有も高い	スマホが所有率上昇 ＩＣＴ利活用が活発・消極混在
仲間・家族中心	女性が多い・有職者が高い	スマホが所有率上昇 スマホ所有期間が長い
地域中心	男性中心 経済的ゆとりが低い	スマホが所有率上昇 ＩＣＴ利活用は初級中心 ここ１年で所有した人が多い
消極派	男性がやや多い パソコン保有が低い	**スマホ所有率が横ばい**

→ライフスタイルにより、スマホとの関わり方が異なることが明らかになった。**ライフスタイルに合わせた普及、サポートが求められる。**

3-6 今後の研究について

スマホ所有が4割を超え、今後アクティブシニアを中心に、さらに普及する可能性がある。
その一方、消極派に対しＩＣＴをどう活用できるか、検討していく必要がある。